

各 位

2026年1月13日

株式会社イクヨ（証券コード：7273）

代表取締役社長 孫 峰

**長崎県時津町とイクヨグループ 脱炭素社会実現に向けた
「水素サプライチェーン構築」に関する包括連携協定を締結
ー水素自転車为核心とした地産地消型エネルギーモデルの創出へー**

長崎県時津町（町長：山上 広信）と、当社グループ会社であるYOUON JAPAN株式会社（以下「YOUON JAPAN」）は、脱炭素社会の実現及び持続可能なまちづくり（SDGs）の推進を目的として、水素エネルギーを活用したサプライチェーン構築に関する包括連携を締結いたしました。

1. 背景

近年、時津町では土地区画整理事業や新たな幹線道路の開通により、国道206号をはじめとする交通渋滞の緩和や利便性向上、防災機能の強化など、道路インフラ整備が着実に進んでいます。

一方、世界的に環境保護や脱炭素への対応が強く求められるなか、交通インフラに起因する環境負荷低減については、さらなる取り組みが求められている状況です。

こうした課題認識のもと、時津町では、次世代エネルギーである「水素」に着目し、環境負荷の少ない移動手段とエネルギー供給を組み合わせた「地産地消型エネルギーモデル」の創出を検討しています。

2. 包括連携の概要

本連携では、YOUON JAPANが展開する水素燃料電池電動アシスト自転車及び水素生成技術を活用し、時津町内における水素サプライチェーンの構築を目指します。

YOUON JAPANの水素自転車は、大阪万博での採用実績を有し、さらに国内で初めて国家公安委員会の型式認定を取得した次世代モビリティです。これにより、従来は研究・実証段階にとどまっていた水素利用を、通勤・通学、観光、日常の移動手段へと広げることが可能となります。

3. 想定する取り組み内容

包括連携協定に基づき、以下の分野での連携を想定しています。

- 水素自転車及び水素生成器の実証導入
- 排出ガスゼロの次世代モビリティによる脱炭素施策の推進
- 観光資源と連動した「水素サイクルツーリズム」の検討
- 災害時における非常用電源としての水素活用検証
- 次世代エネルギーを体感できる環境教育・啓発活動

水素生成器と再生可能エネルギーを組み合わせることで、大規模な設備を必要としない「水から生まれ、水に還る」時津町独自の水素サプライチェーンの実現を目指します。

4. 今後の展望

本包括連携に基づく取り組みは、段階的なロードマップに沿って推進します。

まず、包括連携協定締結後1年目を目途に、水素自転車および水素生成器を活用した実証実験（PoC）を実施し、運用面や事業性の検証を行います。あわせて、広告スポンサーやふるさと納税、補助金の活用等により、自治体の人的・金銭的負担が発生しない持続可能なビジネスモデルの確立を目指します。

その後、実現可能性が確認された場合には、町内複数拠点への展開や観光客向けシェアサイクルの導入を検討します。さらに、取り組み成果を「時津町モデル」として整理・発信するとともに、災害時連携を含むレジリエンス強化を図り、脱炭素社会の実現に向けた先進的なまちづくりを推進してまいります。



写真：左 当社代表取締役社長 孫 峰、右 時津町長 山上 広信殿



大阪・関西万博会場に導入したYOUON水素アシスト自転車

【URL】

長崎県時津町：<https://www.town.togitsu.nagasaki.jp/index.html>

YOUON JAPAN株式会社：<https://www.youon.jp/index.html>

【関連プレスリリース】

- ・[イクヨグループ、日本初の「水素アシスト自転車」が型式認定に合格](#)
- ・[YOUON JAPAN、水素アシスト自転車と水素生成機が2025年大阪・関西万博会場に導入](#)
- ・[日本初の「水素アシスト自転車」が型式認定に合格【YOUON JAPAN】](#)

以上

【当リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社イクヨ ストラテジック デザイン部

Email： mail-ikuyo@ikuyo194.co.jp